

# 10. コロナ禍に伴い変化した感染予防管理 ～当院のポータブル撮影について～

医療法人社団愛陽会 三川病院  
○佐藤 賢、村上 隼斗、佐々木 康仁、長岡 芳久、錦織 靖

## 【研究の動機】

当院の放射線検査における感染予防管理は、コロナ禍において情報収集と検討を重ねながら徐々に変わり、コロナウイルス感染症 2019 発生前と比べると大幅に変化した。この機会に感染予防管理について振り返ろうと考えた。

## 【目的】

ポータブル撮影の感染予防管理について、どのように変化したかを把握する。

## 【方法】

①コロナ禍前（2019年11月）の状況、②現在（2023年3月）に至るまでの検討内容、③現在の状況を振り返る。

## 【結果】

### ①コロナ禍前（2019年11月）の状況

【撮影時】 ●マスク着用なし●感染患者（尿路感染症、MRSA等）はカセットカバーとニトリル手袋を使用

【撮影後】 ●手指消毒 ⇒ 感染患者撮影時は直ぐに実施し、その他の患者は放射線室に戻ってから実施

《2019年12月初旬よりコロナ禍が始まり、撮影の都度、撮影機器・器具を消毒することとした》

### ②現在（2023年3月）に至るまでの検討内容

- I. 消毒用品の変更 ⇒安全性・使い易さ・経済性から清拭シート（サラサイド除菌クロス）に変更
- II. 消毒による色落ち対策の検討 ⇒グリッドを常にカセットカバーで包装し、月1回交換
- III. 消毒による黄ばみ対策の検討 ⇒防護衣の上にプラスチックエプロン（袖なし）を着用し、撮影機器・器具の清拭後、直ぐに水拭き実施（黄ばみ原因の薬液成分に浸る時間を短くする為）
- IV. その他（X線防護メガネの使用） ⇒院内研究発表を機に導入され、眼球からのコロナ感染予防に役立っている

### ③現在の状況

- I. 【撮影時】 ●マスク着用●感染患者はコロナ禍前と同様●グリッドをカセットカバー（月1回交換）で包装●プラスチックエプロン（袖なし）着用●X線防護メガネ着用

【撮影後】 ●手指消毒を直ぐに実施●装置等を清拭し、その後直ぐに水拭き実施

【その他】 ●装置の収納スペースに清拭シート、水拭き用タオル、プラスチックエプロン（袖なし）を常備

### II. ～コロナウイルス感染症 2019 に感染中の患者について～

【撮影時】 ●適正な PPE（個人用防護具）を装着 ●技師 2 名のうち片方が撮影（もう片方は病室外で待機）

【撮影後】 ●病室外で待機している技師がカセットを受け取り画像確認●使用した PPE を病室内のダストボックスへ廃棄●退室の際、撮影機器・器具に加えて装置のタイヤを清拭

## 【考察】

1. コロナ禍前後の感染予防管理を比較したことによりコロナ禍前の管理不足に気付いた
2. 他職種スタッフ（看護師・薬剤師）の助言により感染予防管理が良い方向へと導かれた
3. 委員会等（多職種のスタッフが集まる場）で活発な話し合いをおこなっていききたい

今回の研究から定期的な回顧の重要性、コミュニケーションの重要性、多職種のスタッフによる意見交換の重要性を改めて確認できた。今後も多方面において、今回の“気づき”を大切にしていきたい。